

平成22年度病害虫発生予報第4号

平成22年7月1日
愛知 県

1 普通作物

イネいもち病は、6月下旬の巡回調査では、葉いもちの発生を確認していませんが、BLASTAM（水稻いもち発生予測システム）による葉いもち感染好適日が6月中旬以降各地で出現しています。今後の気象状況に注意し、発生を確認したら適切に防除しましょう。各地の感染好適日など詳しくは、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第2号」を参照してください。

セジロウンカは、例年に比べ飛来時期が早く、すでに県内各地の本田で生息が確認されています。トビイロウンカの飛来および発生は現在のところ確認されていません。飛来状況等は、本日発表の「ウンカ情報第1号」を参照してください。

斑点米の原因となるアカスジカスミカメなどのカメムシ類が、畦畔において平年より多く確認されています。日ごろから畦畔や土手などの除草を行い、カメムシ類の生息密度を下げ、出穂期以降の水田への侵入を少なくするように努めましょう。詳しくは、本日発表の「斑点米カメムシ情報第1号」を参照してください。

2 果樹

ブドウべと病、黒とう病、晩腐病、カキ落葉病など、降雨により発生が拡大する病害は、今後の発生状況に注意してください。

ナシ黒星病はやや多い発生状況です。気温が低く推移すると発生が多くなりますので、気温の変動に注意し、薬剤防除しましょう。

モモせん孔細菌病はやや多い発生状況です。風を伴う雨で発生が拡大します。早期落葉を避けるため、収穫が終わったほ場では防除しましょう。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおける誘殺数は6月第4半旬から多い状態が続いています。これからは、本来の食餌であるヒノキ球果を求めて山林へ戻りますが、今年は越冬成虫が非常に多く、ヒノキ球果の着生量はやや少ないため、一時、果樹園で見かけなくなっても越冬成虫が果樹園に再飛来すると思われるので、引き続き十分に注意しましょう。

モモのクワシロカイガラムシの有効積算温度を用いた第2世代ふ化予測日は、名古屋市が7月16日、豊田市が7月16日、岡崎市が7月18日、豊橋市が7月19日で昨年より5日前後遅くなっています。しかし、気温によりふ化日が前後するため、ほ場で寄生箇所をよく観察し、ふ化幼虫を確認したら直ちに防除しましょう。

チャノキイロアザミウマが増えてきました。本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参考に、防除しましょう。

3 花き

キク（露地）白さび病の発生量は平年並ですが、曇雨天が続き、気温が低めに推移した場合、発生が多くなりますので注意しましょう。

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (葉いもち)	平年並	全域	6月の発生量はやや少ない 7月の降水量、日照時間は平年並 BLASTAMによる感染好適日が各地で出現した	－ ± ＋
	紋枯病	平年並	全域（早期栽培）	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	セジロウンカ	やや多い (早い)	全域	6月の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	＋ ±
	ツマグロヨコバイ	やや少ない	全域	6月の発生量は少ない 予察灯における誘殺数は平年並 からやや多い	－ ＋
	カメムシ類	やや多い	全域（早期栽培）	畦畔における6月の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	＋ ±
	フタオビコヤガ（イネアオムシ）	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 予察灯における誘殺数は平年並	＋ ±
	イチモンジセセリ（イネツトムシ）	多い	全域	第1世代幼虫の発生量が多い	＋

・ 防除対策

[イネ・セジロウンカ]

多発生ほ場ではアドマイヤー水和剤、MR. ジョーカーEW、スタークル／アルバリン粒剤などで薬剤防除しましょう。

[イネ・カメムシ類]

防除対策等詳しくは、本日発表の「斑点米カメムシ情報第1号」を参照してください。

[イネ・フタオビコヤガ（イネアオムシ）]

多発生ほ場ではMR. ジョーカーEW、スミチオン乳剤などで薬剤防除しましょう。

[イネ・イチモンジセセリ（イネツトムシ）]

多発生ほ場ではスミチオン乳剤、パダン粒剤4などで薬剤防除しましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	黒点病	やや少ない	全域	孢子形成量はやや少ない 7月の降水量は平年並	－ ±
	ミカンハダニ	少ない	全域	6月の発生量は少ない	－
	チャノキイロ アザミウマ	やや多い	全域	粘着トラップにおける誘殺数は やや多い 6月のイヌマキにおける発生量 は平年並	＋ ±
ナシ	黒星病	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	＋ ±
	うどんこ病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	シンクイムシ類	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±
	ハダニ類	平年並	全域	6月の発生量は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	6月の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	＋ ±
	灰星病	平年並	全域	4月の花腐れの発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	ナシヒメシンクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±
	モモハモグリガ	平年並	全域	6月の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ±
	ハダニ類	平年並	全域	6月の発生量は平年並	±
ブドウ	黒とう病	やや少ない	全域	6月の発生量はやや少ない 7月の降水量は平年並	－ ±
	べと病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	チャノキイロ アザミウマ	やや多い	全域	6月のイヌマキにおける発生量 は平年並 すでに果軸で被害が見られる。	± ＋
カキ	角斑落葉病 円星落葉病	やや多い	全域	昨秋の発生量はやや多い 7月の降水量は平年並	＋ ±
	うどんこ病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
果樹共通	カメムシ類	多い	全域	予察灯およびフェロモントラッ プにおける誘殺数は多い ヒノキの球果量はやや少ない	＋ ＋

・防除対策

〔ウンシュウミカン、ブドウ・チャノキイロアザミウマ〕

防除対策等詳しくは、本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第3号」を参照してください。

〔ナシ黒星病〕

発病葉や果実は伝染源となるので取り除き、園外へ持ち出すなど処分を徹底しましょう。サンリット水和剤や、アフェットフロアブル、ナリアWDGなどで防除しましょう。収穫期に近づいているので、使用時期に注意してください。

〔モモせん孔細菌病〕

袋かけされている果実では感染が軽減されます。収穫期に入っているため、薬剤による防除はできるだけ控え、多発生園では収穫後にアグリマイシン-100、アタッキン水和剤などで薬剤防除しましょう。

〔カキ角斑落葉病、カキ円星落葉病〕

発生を確認したほ場や昨年発生したほ場ではラビライト水和剤、ベルコート水和剤、アミスター10フロアブルなどで防除しましょう。

〔果樹共通・カメムシ類〕

5月26日発表の「平成22年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	全域	6月の発生量は平年並 7月の降水量は平年並	± ±
	アザミウマ類	平年並	全域	6月の発生量は平年並	±

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台6月25日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 10% 平年並 : 30% 高い : 60%

〔降水量〕 少ない : 40% 平年並 : 40% 多い : 20%

〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

〈予想される天候の特徴〉

当地方の向こう1か月は、平年と同様に梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。(6月26日～7月23日の晴れ日数の平年値は約12日)。

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。